

漫湖の生物を観察する県子ども環境会議の参加児童生徒ら
—24日、豊見城市の漫湖



読んで
学べ
NIE

保護活動で連携

子ども環境会議開く

豊見城

県内でラムサール条約に登録されている4湿地な2回県子ども環境会議(漫湖)

湖水鳥・湿地センター管理運営協議会(主催)が23、24の両日、豊見城市の同センターで開かれた。沖縄本島と慶良間諸島、久米島、石垣島から35人の児童生徒が集まり、意見を交わした。久米島でホタルがすめる環境づくりをしている「久米島ホタルenjya」は、大雨のたびにホタルの生息地に農薬などが混じった赤土が流れ込んでいたことから、さくを設置したり植物を植えたりと流入防止に取り組んだことを発表した。

那覇市立天妃小6年の知念桜子さん(12)は「『自然はひとつながり』の考え方のもと活動範囲を、森から海、川まで広げたグループがいたことはすごいと思った」と他グループから刺激を受けていた。